無断転載禁止

昭和十三年十月十五日印刷発行
昭和十三年十月十日発行
醫道の日本　第一巻第一號（1）

醫道の日本

誌代一ヶ年一部十錢送料三錢
國債證券代用
東京向島區寺島町一ノ十
編輯兼發行人　戸部宗七郎
東京向島區寺島町一ノ十
發行所　醫道の日本社
振替口座東京一六三五四一番
記事締切　毎月十日

卷頭言

眞の保健道

柳谷素靈

時局に鑑み、保健方法を云々する者、誠に種々雜多である。事これ程眞の健康法を、要求することの切實なることを、表白せる時代はない。

こゝに、官民一致眞の健康方法を考究案出して、すみやかに實行に移すべき、緊要事なることを、確認する所以であらう。我等は該方法に次の條件をもつて臨まんと欲するものである。

一、方法は最も簡易なること。

一、醫學的基礎に立脚するもの。

一、隨時隨所に短時間で出來ること。

一、費用最も低廉なること

一、男女老若を問はず行ひ得ること。

一、確かな健康法たること

我等は少くとも如上の條件を具備する健康方法たることを主張せんと欲するものである。思ふに現下我國に於て、實施せられつゝある健康法の中上記の條件を具備するものは即ちラヂオ體操であらう、又はこれに準ずる体操、調息等を擧げることが出來る。これ等は確に理想的健康方法ではあらうが、我等をもつて敢へて云はしむるならば、消極的健康法と云はざるを得ない。その事由は虚弱性体質若しくは疾病の初期に對し運動を停止する現代醫學の立前からして容易に首肯し得る所であらう。眞の健康法は、健体をして益々頑健に病体をして健体に、捷徑、適確の道でなければならぬ。我等はこゝに灸療法こそ醫業的根據に輝ける世界一の物理的療法なりと叱呼するものである。この理念を堅持して當路者に呼びかけ民衆に廣め、實行せしめて、苦患を與へざらん大抱負を、腹に藏し一度必要時に際會したならば、丹田一氣奮出する態の勇猛心を日暉滴發し、提携協和國結以つて大和民族の健康の基礎たるべく努力するの念願を奉持すべきである。本紙の改題發刊の眞意義の一端亦是に藏するものである。

醫道の日本改題の辭

西澤生惠

蓬松の名轉じて醫道の日本となす、名は体を現し、体は名を現すに至る。快なるかな心身一如の体系をそなへて、「醫道の日本」は生れたり。よろしく大にせずんばあるべからず。極小は極大の始め之れ大宇宙の嚴然たる法則なり小より大をなす之れ自然に順ふ形にして又道に通ずる所以なり。大醫は國を醫し、中醫は人を醫す云々、醫道は學と術の精華なり。學んで知ると謂へども術として活用せざれば學ばざるに等しく、學んで術とするも天道にそむき、よろしく道を行はずんばあるべからず。大に順應するを道となす。

寔に學術道は三にして一たらざるべからず。日本とは祖國の名であると共に總ての源たるを意味するもの也。

以上さまざまに說かぬ簡句の中より說かぬコトタマを必讀されん事へ。

祝發展

日本醫學研究會門下
日本高等鍼灸學院
安西雲堂

日本高等鍼灸學院長、素靈柳谷見は斯界に於ける吏都の雄である。齢未だ不惑に達せずして及門の士千を越す、盛んならずや。

さきに門下同窓會の手により發行しつゝありし機關誌「蓬松」が此回より發展「醫道の日本」と改題して活字印行されることになつた。この報に接したる余は「鍼灸の日本」の誤りにあらずやと疑ひたりしも、さらに考ふるに鍼灸の術はもと古醫道の一部、醫道は親にして、鍼灸は子なり。其本を忘れて其末全きものはあらず。さすがは柳谷門下多士濟々たるものなりと感心せる次第である。

それ學術國會は言へ易くして行ひ難し。余の本誌會員に望む所は、よく技術の修練に熟達すると倶に醫道の源泉を汲むことを忘れず、以て本誌の題名に背くなからむことである。

投稿歡迎

鍼灸實地家の臨床的記事の投稿を希望いたします。

編輯室

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます

無断転載禁止

實用性ある補瀉の方法

柳谷素靈

補瀉の治病に際し最も重要なる概念であり、最も大切なる技法であることは古典の一頁も見たことのある仁には誰れでも首肯出來るところであらう。ところが、實際治療に際して何を目標に、何を對象に、如何に鍼を運用し如何に施灸するかについては古典の概念を如何に運用するかと云ふ實際問題にして、古典の記載のみの知識によつて之を運用せんとすれば、はたと困ることが多いのである。これは余の經驗ばかりでなく先輩の知見でもある、それでは、補瀉を實際行ふにはどうすればよいか、最も初學の階梯たるべき方法一番分り易い方法はどうするかと云ふことについて、いさゝか述べて見ようと考へる。前文の如く初學階梯を目標としての一文を草するのであるから、理論的と云ふよりもむしろ實際手法について述へんとするのである。

補瀉の對象となるものは、補は救ふことでとあり、濟ふ事であり、與へることである。瀉は奪ふことであること。瀉は奪ふことであり取ることであり、除くことであることはだれでも知つてゐる概念であらう。余は補とは被包現象を生起せしむることであり、瀉は破壞現象を生起せしむることであると說く、然らば、被包現象、即ち病變局所の復興現象を喚起するには如何なる鍼法灸法を以つて臨むべきか、破壞現象、即ち妛除現象を病變局所に生起せしむるには如何なる鍼灸の方法を用ふべきであるかと云ふことが、當面の問題とならねばならぬ。

瀉の對象となるものは氣血鬱溢邪氣堅緊である、補の對象と爲るものは氣血損乏正氣陷沒である。前者は氣血の有餘によつて生じ、後者は氣血の不足によつて生するとの考察は經絡學思想上より當然演繹されたる歸結である。こうした考へを考察の基本に於いて、次の手法を以つて實際患者に臨むならば、豫期の成果を見るものである。實際、肩癖や腰痛、坐骨神經痛に於ける大腿後側の堅緊々張、內臟の病氣による腹上の痞塊、心下部の膨滿積聚等に對しては瀉法の運用を以つて治療の一方とするのである。

これには速刺速拔以つて生活体自家に對し破壞性ある細胞の增生を來たさしめ、病變局所の邪氣を消散々逸せしむるのである。瀉の最大なるものは痞法とて淺く創をつけて血液をにじませ、又は瀉血の方法をとるのである。

これに反し、麻痺又は知覺異常、若くは皮膚筋肉の陷下陷沒又は陷脈に際し、遲刺遲拔以つて病變局所の復興現象に與る生体自家の細胞の發生を招來せしむるのである。

瀉に於いては出來るだけ早きがよく、補の場合はなるだけゆつくりと行ふのがよいのである。

之を灸法によるときは一時的に强烈なる刺戟を與ふるときは瀉となり、持長的弱灸刺戟を與ふるときは補となるのである。この爲には艾炷の底面を大にして吹き消すことが瀉となり、瀉炷の底面小にして直徑長く自燃せしむるのが補となるのである。

治驗例に就いて

戸部宗七郎

治驗例と云ふものは、書き憎いものである、と筆者は考へてゐる。なぜならば、正確に數字的に述べては、面白くなく、と云ふよりも、文字に表現して經過や狀態を正確に讀者に知らしめる事ができないからである。

兎角、鍼なり灸なりの治療を受けにくる人は、急性の疾患の人は極くまれで、大概は慢性のこじれたものが多い、從つて治癒經過も長く、薄紙をはがす様にほんの少し宛輕解して行く事が多い。中には急性の癰とか、急性盲腸炎或は胃痙攣等の如く短時間の內に、鍼灸の偉効を示す事の出來るものがあるが、比率から云つたなら極く僅なものであらう。

急性の疾患に接する事の尠くない我々は殘念乍ら其の方の技術は上手と云ふ譯にはゆかない。と云ぶと、醫者は如何にも、この種の病には完璧を誇り得る、醫術を心得てゐるかの如く筆者が思つてゐると、誤解される方もあるかも知れない。又讀者の內には、醫者こそが、一日或は一刻を爭ふ患者にとつて、唯一の味方であると、信じてゐられる方もあるかも知れない、

だが筆者は疑ふ自信を以てそれ等の治療に携つてゐる醫者が、果して幾人あろうぞ、曉天の星の如く實に瞭々たるものであろう。

氣の毒なのは、患者である頼みにならぬ、人を頼みとして生命を託してゐるのだ。

筆者は最近左の如き患者にぶつかつた。

若かりし頃、藝妓を二、三年した事のある、現在四十五才の婦人で、二十八九才頃より、三、四年間猛烈なる、月經痛に惱まされ、次いで、四ケ月程の流產をなし、それと同時に、月經痛が治つて、今度は、激しい長血を患ふ様になつた。月經に引續いて、每日〳〵下血して一ケ月に及んだそうである。体中の血が全部出て了ふのではないかと、驚いて、醫師に治療を乞ふたところ、醫師も驚いて、早速事の事だけを、病氣と見て、一入院させて、止血する可く、大童となつたので幸ひ、血は生止つて、退院した。

所がそれ以來、十年間、今日に至る迄、治つたり、患らつたりして、ブラ〳〵してゐる。頭痛、腰痛、腰冷、足の倦退、下血等、はげしくはないが、婦人病一般の徵候を殆んど備えてゐる。筆者が初めて往診した時も青い顏をして橫になつてゐた。

此處に我々が否世の治療に携るもの、總てが考へなければならない問題があるのである。人間には、自然治癒力があつて折にふれその機能を發揮してゐる事である。この患者の場合、出血してゐるのを無理に止めた事が、卽ち自然に反した治療法ではなかつたか。多量の赤黑い血を見て、患者が、驚くのは無理のないことである。これで癒れば、奇蹟であり、不治があたり前である。

この場合我々の治療法は如何、答は簡單である。出なくなるまで、瘀血を出させる事である。

右の様な所に我々の病に對する見方の優秀さ、と云ふか行詰れる洋方醫學と異なる點があるのであらう。勿論洋方の盡くが斯の如く不手際で、漢方の總てが優秀である、と云ふのではない。

日本醫學研究會の宣言に曰く「本會は現代の科學的醫學と東洋本有の醫術とを集大成し、學、術、道三者歸一を要諦とする本邦獨自の醫學の建設を期す。」とあるが、基礎醫學に於て秀れたる、現代醫學を土臺として、これに生命を吹込む事が漢方醫學の行くべき道であらう。

現實は何處までも現實である、一個の病人に就いて、現代醫學では、熱が何度、脈搏が幾つ、尿の蛋白の量が幾らと診察し。漢方醫學に於ては同じこの病人を診て、往來寒熱があり、脈は弦脈、腹診に於ては、腹筋の緊直があると見る。どちらの診察も、正しい事實なのである。これ等を、うまく活用する事が、これからの、醫人の開拓すべき道であらう。

思ふ事の半分も言はない內に、紙數が盡きて了つた、又來月號に筆硯を更めて、記す事にする。

各地家傳秘鍼名灸秘傳集による虫樣突起炎の治驗例

（山形）堀江素文

柳谷先生編著〝各地家傳秘鍼灸秘傳集〟の出版に當り筆耕印刷は筆者一人で、なし得る字は橫濱まで行つて書道の大家に揮毫を依頼する等相當の苦心をしたものだけに特に愛着を覺えて居るものである。したがつて多くの人も通すのよく應用もし且つは自己藏書のものにしたのも少くない。

表題の如きもその一つである。

治驗例

患者　三十一歲の男　自動車の運轉手、三年前虫樣突起炎を患ふも醫療手術せずにより治す、今回又夜分突然發病附近の醫師を迎へるに虫樣突起炎の診斷の許に手術を奬む。患者は手術するならば鄉里の醫院でなす故應急處置のみを望んで居た。友人の乞ひで往診す。

一、脈浮數（毎搏）二、舌候、相當厚き白苔の面面にありて黃苔が薄くあり、季肋部より下腹にかけて緊滿感あり、壓痛點に壓痛感あり、排便二三日なしと、よつて應急處置として治療法は秘傳集の　四十九法を用ひ米粒大で連續施灸六十壯位施灸す、疼痛は緩解せりと云ふの　歸宅明日往診せるに、施灸後二時間位より正午まで數回の下痢便ありて痛みは九分通りない、よつて直ちに十數時間汽車に乘つて鄉里に歸へりて手術すると云ふ、筆者は手術の不必要を說明せしかど虫樣突起炎は手術すべきものと誤信してゆずらず、よつて昨夜と同樣の施灸をなす、其後約二十日の後來約して曰く汽車に乘ると間もなく又々下痢數回あり、痛み全くなく鄉里の病院へ行くに此の位のものには手術の要なしとの事で歸へつてきたと云ふので、なほ灸治療を奬めたが頑へせず歸宅した、こうした場合特日施灸したら全せるものをと思ふが、世界十數人此の種の治療したが大同小異で申し合せた如く手術を欲して居た。なほ此の外の治療には症に應じ大腸俞の腸俞騎竹馬の穴を適用したものもあるが大腸經の三里を併用したらば最も良い効果を得た事を記して擱筆する。

（昭十三、八、一七）

山形縣昭十三年度第二回
鍼灸術試驗現日設表
試驗期日十月十日（鍼術灸術實地）
十月十一日灸術（學說實地）
十月十二日按摩マッサージ

會報

今回、日本高等鍼灸學院の同窓會が結成されました、會員は、學院卒業生及び從來柳谷先生より指導を受けたる者を以つて正會員とします、未入會の方は早速御申込み下さい

東京市向島區寺島町一丁目十番地
日本高等鍼灸學院　同窓會

（規則書呈　但郵料三錢要）

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます

無断転載禁止

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます